Osaka University Knowledge Archive

Title	会員による著書・共著紹介
Author(s)	渡辺, 眞
Citation	デザイン理論. 1987, 26, p. 135-136
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/52711
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

会員による著書・共著紹介

①神林恒道編『現代芸術のトポロジー』

1987年5月，東京，勁草書房

本書は美学・芸術学の分野での関西の若手の研究者をメンバーとし，20世紀芸術をテーマにして編集された論集である。本学会会員である岩城見一，太田喬夫，吉積健の3氏が共著者として参加されている。

岩城会員は，第2章「芸術・反芸術・非芸術」の第1節「オブジェ—自然への回帰」というテーマの下に，「オブジェ」という現代的観念の意義を論じ，20世紀の種々の美術動向や作品の中に「オブジェ性」を検証されている。太田会員は，第2章の第2節「ポップ・アート—俗物の芸術—」と題され，「ポップ・アート」をテーマとして，その大衆性とアバンギャルド性を具体的作品に即して論及されている。吉積会員は，第3章「テクノ時代の芸術」の第2節「デザインと現代芸術」を分担され，近代デザインを機械芸術と捉えるとともに，機械技術およびそれを支える理知的合理的精神に基づいた20世紀芸術のあり方を論じ，複製，大衆性，無名性といった共通性が問題にされている。

②太田喬夫・岩城見一・米澤有恒編『美・芸術・真理—ドイツの美学者たち—』

1987年4月，京都，昭和堂

本書ではカントに始まり，ガダマーまでドイツの主要な9人の美学者が取り上げられ，それぞれ年代順に9人の研究者によって執筆されている。太田，岩城の両会員が編集・執筆者として加わり，太田会員は第6章「美的享受と美的価値—M・ガイガーの現象学的美学」を，岩城会員は第3章「歴史における美の理念—ヘーゲルの『美学』—」を担当されている。これは純粋に美学関係の研究書であり，デザインの問題に触れられてはいない。

③オーウェン・ジョーンズ編著『世界装飾文様2020』（原題『The Grammar of Ornament』）

日本語版解説：佐野敬彦・渡辺真，1987年，2分冊，東京，学習研究社

本書は，イギリスの建築家オーウェン・ジェーンズ（Owen Jones）が1856年に「The Grammar of Ornament」と題して編集したものを原本とし，そこに収録された2000点以上の世界の装飾文様図案はそのまま覆刻され，論文の部分については日本語版解説としてほとんどその内容が書き改められている。解説にたずさわった立場から言いますと，主として各地域の装飾文様の歴史的地理的そして美術史的背景を解説することに努めました。

以上今年度に出版された意匠学会会員による著書および共著書を紹介しました。編集部

では会員による著書・共著書については可能なかぎり会員によって書評していただく方針ですが，種々の都合により出来ないこともあります。その場合には今回のように簡単ではありますが，紹介させていただきます。なお本年度についても編集部による調査不足でもれているものがあるかもしれません。もしそうであれば心からおわび申し上げます。今後とも会員諸氏より編集部あて情報提供をお願いする次第です。　　（文責　渡辺）